おんがく広場

♪Music Square♬

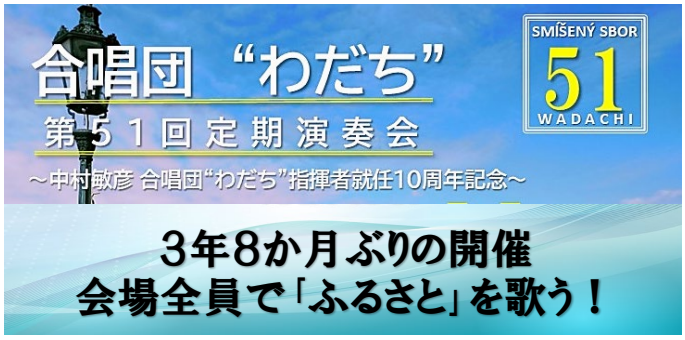
第233号

令和5年(2023) 5月8日(月)

Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい　令和2年(2020)4月10日創刊

発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一

連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp



5月5日(金・祝)浜離宮朝日ホールにて、**合唱団“わだち”第51回定期演奏会**が開かれました。

合唱団“わだち”も例外なくコロナ禍に見舞われ、2019年の第50回定演のあと、集って歌うことができなくなってしまいました。その間、オンライン練習などで活動を続けきましたが、今年ようやくコロナ禍が収まり始めたため定演の開催に漕ぎつけました。3年8か月延期してきたステージにやっと立つことができました。

合唱団“わだち”は、1967年に指揮者**諸井昭二**さんによって創設されました。諸井さんは1979年、チェコ政府より「ヤナーチェク文化勲章」を受章し、その後1983年にチェコへの招待演奏旅行を実現しています。以来、チェコとスロヴァキアの音楽を中心に歌い継いでいます。2012年諸井さんの急逝を受け、引き継いだのが当時ピアノを受け持っていた**中村敏彦**さんです。この合唱団の特徴はチェコの曲を原語で歌うことにあります。第２ステージで歌われた星野富弘作詩・千原英喜作曲の混声合唱組曲『**明日へ続く道**』が唯一日本語で、他の3ステージはすべてチェコ語でした。正直なところチェコ語はまったくわかりませんでしたが、歌詞カードに和訳があり、曲目解説も付いていたので参考になりました。

アンコールの最後「ふるさと」では、指揮者中村さんが、みなさんもご一緒に歌いましょうと声をかけ聴衆と一緒に歌うフィナーレとなりました。コロナ禍以降、ステージでマスクを外す団体は少しずつ増えてきました。聴衆も一緒に歌う演奏会はこれからさらに増えることと思います。

会場の浜離宮朝日ホールは、1992年開設、客席数552席、ニューヨーク・カーネギーホールなどと並ぶ世界で最も響きが美しいホールの一つと評価される室内楽専用ホールです。

演奏曲の詳しいことは、合唱団“わだち”公式サイトへ
〔ホームページ〕
http://pela.o.oo7.jp/wadachi.html
〔facebook〕
https://www.facebook.com/ChoirWadachi/

（写真提供：合唱団“わだち”）

新型コロナ・本日より「5類」へ移行

新型コロナウイルス感染症の分類が本日5月8日より「2類相当」から「5類」へ変更されました。

WHOも5月5日に「緊急事態」を3年3か月ぶりに解除しましたので、世界全体としても表面的にはコロナ禍の最悪レベルは去ったということになります。ただし、WHO事務局長は「コロナの脅威が終ったわけではない」と慎重な対応を求めていますし、日本でも専門家は「新型コロナウイルスがなくなるわけではない」と警告しています。

前述の合唱団“わだち”でも、歌い手はノーマスクで歌い、聴衆もマスクはしていても一緒に全員合唱をする状況になってきました。これからますます規制が外され、自由に活動できるようになりますが、マスク着用は個人の常識的判断に委ねられます。これから多くの合唱団や音楽団体が活動を活発化すると思いますが、周囲の感染状況をよく調べて対応したいものです。

「5類」になると何がどう変わるのか、昨年12月に書いた資料がありますので、ご参考になさってください。

COVID-19～感染症の分類～2類相当から5類に移行すると何が変わるのか？　（加藤良一 2022/12/27）
http://rkato.sakura.ne.jp/mushimegane/mm20221227_covid_19_kansensyo_no_bunrui.pdf